

大阪府立国際児童文学館 REPORT



編集・発行=財団法人大阪国際児童文学館 〒565-0826 吹田市千里万博公園10-6 大阪府立国際児童文学館内 TEL06(6876)8800 FAX06(6876)8686 http://www.iiclo.or.jp

児童文学館は国宝です

ここに集まっているものは
万一離散することがあったら
二度ともどつてこないだろう

三木卓さん講演会「児童文学とともに」より



児童文学館は、日本の児童文学の宝があるところですね。今、ここに日本で一番たくさん貴重な児童文学の書籍が集まっています。つまりここは日本の国宝みたいなものですね。京都にも奈良にも国宝になっている寺がありますが、そのひとつというくらいに考えないといけないと思います。

ここに集まっているものは、万一離散することがあったら、二度ともどつてこないだろうと思います。大変多くの人々の努力が結集されてきたものです。鳥越信さんは、ご自分の何十万冊の本を全部ここに寄贈されたわけですね。また、出版社も本をたくさん寄贈してくださっています。

日本の文化を支える人たちが、みんなここでつくっている。それを大阪で管理しているというふうな考えていただきたい。ここは国宝なんだと考えていただきたい。

私は児童文学館がなくなることをとても恐れるし、ぜひなくならないようにしていただきたい。そのためにもまだまだまだできることがあるんじゃないかと思っています。



理事長 松居 直
84年の開館、そして

それに先立つ79年の財団設立以来、子どもは多くの方のご支援を賜りともに歩んでまいりました。70万点にのぼる資料、これまでに培った機能、いずれも多くの機関や個人の方の無償の行為に支えられています。そこには、児童文学を愛し、子どもの文化を育みたいという相通する思いがありました。当館は、不十分ながらもこうした願いを受け止め、また結集する磁場たり得たのではと自負

26年間のご支援に感謝

しております。このたび、甚だ不本意ながら閉館という事態に至り、児童文化の先達が灯した火を消すことについては忸怩たる思いですが、しかし当財団は消滅するわけではありません。存続し、多くの方よりお寄せいただいた温かいご声援を胸に、これまでも増して資料と機能を守るべく努力していく所存です。これまでのご支援ご協力に心より感謝申し上げます。今後の当財団の活動にも変わらぬご理解を賜りますようお願い申し上げます。



館長 向川 幹雄
09年12月27日、最後の開館日を迎えました。取材等に追われ、慌ただしく時間は過ぎ、閉館時刻となりましたが、利用者の皆さんは帰ろうとしません。本当になくなるのか、もう来れないのか。この憤りや不合理をどう解消すればよいのか、立ち去りがたいその光景を目の当たりにしたとき、万感胸に迫るものがありました。皆さんへの閉館のご挨拶のなかで、私は児童

国際児童文学館の再生をめざして

文学館の再生を語りました。今日が、開館以来の26年に渡る歴史のピリオドだとしても、同時にそれは児童文学館再生の第一歩だ、そんな思いでした。施設は廃止ですが、財団は存続して府立中央図書館内に移転し、これから子どもたちの文化のため活動を続けます。大変厳しい道なのであることは間違いない。児童文化の発展は望めない、その一事で次のステップを考えています。引き続き、ご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「中国の絵本」をテーマに国際交流事業



①シンポジウム「アジアの絵本の世界へようこそ 中国と日本の絵本」
09年11月29日(日)講師・熊亮(写真)・絵本作家・梶山俊夫・絵本作家・当日は、ご体調不良のためビデオ出演

②報告集「中国と日本の絵本」の作成
「絵本」や「中国」に対する理解を深め、研究を促進するため、シンポジウムの記録と5本の論文を日本語・中国語・英語の3カ国語で出版しました。
③中国の絵本の貸出用セット作成
中国の絵本の魅力を伝えるため、6つのテーマに沿った中国の絵本52冊を選出し、解説付リストを作成しました。

④子ども向きおはなし会の開催
※当事業にご支援をいただいた企業(50音順、敬称略) 関西電力(株)、近畿日本鉄道(株)、サントリホールディングス(株)、武田薬品工業(株)、阪急電鉄(株)、(株)富士通東北システムズ、パナソニック(株)、ムサシアイテック(株)

09年11月15日、第12回国際グリム賞および記念講演会が行われました。同賞は、当財団と財団法人金蘭会および大阪府立大手前高等学校同窓会金蘭会との共催で、国際的分野で児童文学界に貢献した研究者に贈られる賞です。
第12回受賞者は日本国内での海外児童文学の普及および国際的な研究活動を行って来られた



第12回国際グリム賞授与式・記念講演会
神宮輝夫・青山学院大学名誉教授に贈呈されました。記念講演は「楽園の回復をめざしてー日本児童文学を中心にー」で、1666名が参加しました。また、授賞式および記念講演に日本イギリス児童文学研究会研究大会を併催しました。



神宮輝夫・青山学院大学名誉教授(右)と安橋興二郎・金蘭会理事長

資料

アジアの絵本貸出セット

05年度より国際交流事業の一環として、アジアの絵本貸出セットの作成と団体への貸出を行っています。各国の作品から厳選した絵本を、邦訳があるものはそれも併せて貸出しています。

今年度は①韓国A、②韓国B、③中国語圏、④タイ、⑤インドの5セットを貸し出しました。

学校の授業や図書館での展示の他、公民館などで地域の国際交流にも活用いただいています。

企画展示と関連イベント

①「インドの絵本の現在」展／09年4月

20日～4月29日

②「なつかしのヒーロー・ヒロイン」展／5月2日～7月30日／併せてヒーロー・ヒロインの人気投票、「きみもヒーロー・ヒロインだ」も実施

③「大阪発！子どもの文化③メディアと児童文化」展／8月1日～11月1日（監修：浅岡靖央・日本児童教育専門学校専任講師・06年度当館特別研究員、協力：加藤理・東京成徳大学教授・08年度当館特別研究員）／併せて監修者によるギャラリートーク（9月22日）も実施

④「子どもの夢を描くゆりもの絵本100年」展／11月3日～12月27日／併せておはなしモノレール・はしれミミズL等も実施

古書紹介

「JOBANKI」

（発行：日本放送出版協会関西支社）
JOBANKI（大阪中央放送局＝現NHK大阪）機関誌。創刊年不明（昭和初年頃創刊）。旬刊（月3回刊）。



BOOKが三越呉服店（大阪支店）屋上から試験放送を開始したのが大正14年5月10日。その翌年には子ども向け番組も開始され、以来BOOKは放送のみに留まらず、それらを柱にした出版児童劇「子ども会活動など」、メディアを横断する児童文化運動を組織・展開し、「子どもの放送はBOOK」と評されるまでに至る。

しかし、放送内容については資料が乏しく精緻な情報を把握するのは困難であった。この空白を埋めることのできる資料が本紙である。「コマ・ジカン」放送プログラムや解説視聴者の声のほか、BOOKの子ども向け出版物の紹介などその先駆的活動の一端を窺い知ることができ、当時の記録として貴重である。

本紙はこれまでその存在が指摘されながらも現物が確認されたことはなかったが、当館ではこのほど57号（昭和8年7月）から83号（昭和9年3月）まで、計27冊を入手した。

大きな足跡を残しながら、いまだ不明な点も多いBOOK。児童文化とメディア史の隙間を埋める貴重な資料と期待を込めて。

当館資料を特別貸出・撮影

当館では公共機関等への展示用の特別貸出や撮影を行っています。09年度は42件、1457点の貸出と撮影がありました。

主な貸出・撮影先

- ①「手のひらのモダン」／「コマ・ジカン」と童画家たち／横須賀美術館／6月～8月／「コマ・ジカン」創刊号他全104点
- ②「河目梯二展」／刈谷市美術館／7月～9月／「家なき子」他全70点
- ③「月光とメルヘン」／中原中也記念館／7月～9月／「教育お伽話」静御前他全16点
- ④「二本の矢物語」／広島城／7月～9月／「特輯」マウリモトナリ他全4点
- ⑤「ふし紙芝居の世界」／愛荘町立愛知川びんてまりの館／9月～10月／街頭紙芝居「ペヒー博士」他全9点
- ⑥「まどみちおえてん」／周南市美術博物館／11月～12月／「昆虫列車」創刊号他全27点

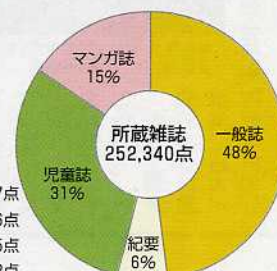
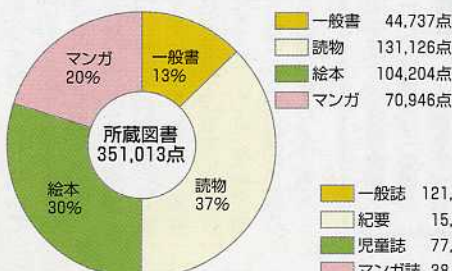
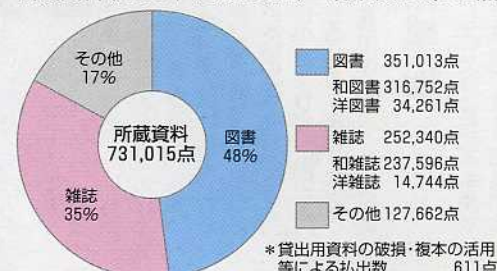


「大阪発！子どもの文化③メディアと児童文化」展

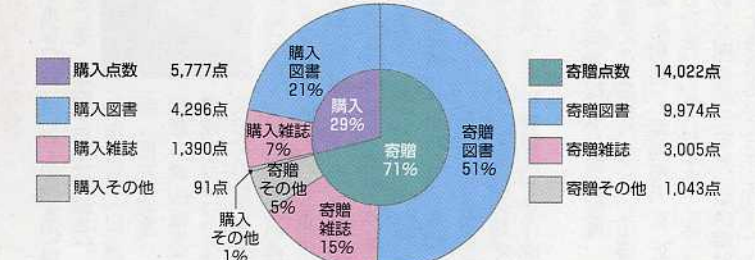
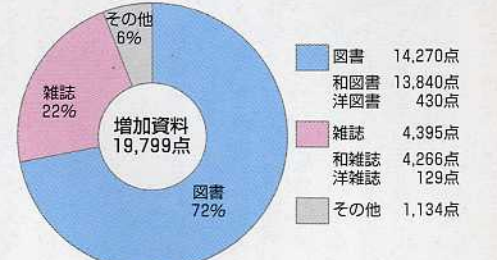
That's IICLO

所蔵資料統計平成21年度（2009年4月～12月）

所蔵資料（2009年12月末現在） 総点数731,015点



増加資料（2009年4月～12月） 総点数 19,799点



研究

子ども向け図書検索システム 開発研究

昨年に引き続き「ほんたひきつず」(子ども用検索サイトのコンテンツ作成(あらすじ・件名等))を行いました。公共図書館はもとより、学校教育の場でもさらにご利用いただくため、システムを活用した授業プランを構築しました。

特別研究員制度

05年度より、外部の研究者に当館の資料を活用して研究を深めていただく特別研究員制度を設けています。ネットワークを広げ、研究成果を当館の展示の企画監修、講演会の開催、紀要への論文掲載等で還元していただいています。09年度の特別研究員は次の方です。

村川京子(大阪薫英女子短期大学准教授) / 研究テーマ「近代日本の絵雑誌の基礎的研究」 / 成果還元「絵雑誌の細目データの提供」

出版物

◆「中国と日本の絵本」(編集長三宅興子・梅花女子大名誉教授)

①シンポジウム報告

熊亮(画家・絵本作家) 梶山俊夫(画家・絵本作家)

②絵本と私

任溶溶(翻訳家・児童文学作家)

③絵雑誌「小朋友」に見る中国オリジナル絵本の萌芽―建国後から一九八〇年代までを中心に―

成實朋子(大阪教育大学准教授)

④現代中国における絵本―これまでの流れと現状

方衛平(中国浙江師範大学児童文学研究所長、教授)

中国絵本の現状と可能性 中西文紀子(編集者)

⑥中国における現代絵本作家の試み―熊亮「小さな石の獅子」の新しい浅野法子(当館非常勤専門員)

明治大正期児童雑誌 研究プロジェクト

当館が所蔵している貴重な明治大正期の雑誌目次データベースを作成し、雑誌研究を行うため、外部研究者の協力を得て当館職員と協働でプロジェクトを行っています。09年度は、科学研究費助成を受けて作成した「少年世界」の内容目次データベースを活用して外部研究者と「少年世界」の共同研究を行い、その成果を第48回日本児童文学学会で発表しました。

インターンシップ生を 初めて受入れ

当館では09年度一定期間財団の業務体験に従事していただくことで、児童文学・児童文化に理解を深めていただくことを目的に、初めてインターンシップ生を受け入れました。6月に募集開始、7月から3大学4名の学生さんをお迎えしました。従事したい業務を個別にご相談してプログラムを立案し、当館のプロモーションビデオの企画やイベントチラシの作成・配付など、広報関連業務を中心に体験いただきました。インターンシップ期間はあつという間に終了しましたが、プログラム終了後も交流が続ぎ、当館イベントで協力を得ているほか、館外での広報に力を貸していただいています。

当館閉館メモリアル DVD作成・上映

小寺卓矢さん
(写真家・絵本作家)
ボランティアで
館内撮影

大阪府子ども文庫連絡会のメンバーが参加し、デジタルカメラで館内を撮影するワークショップを実施。写真とメッセージによる大パネルを作成・展示。



当館閉館のニュースを聞き、北海道在住の小寺卓矢さん(写真家・絵本作家)が、ボランティアで当館の写真を撮影するワークショップを開催、その写真をもとにメモリアルDVDを作成してくださいました。

撮影は09年12月8日(火)と11日(金)に行い、11日には大阪府子ども文庫連絡会の10人のメンバーが参加して、デジタルカメラで館内を撮影するワークショップを実施。写真とメッセージによる一枚の大きなパネルが完成しました。パネルは27日までロビーに展示するとともに、小寺さん作成のDVDは27日までロビーで常時映写しました。また、12月27日にはおはなし会に併せて講堂でDVDを上映しました。

振興

ニッサン童話と絵本のグランプリ

日産自動車(株)の協賛を得て、当財団主催の「ニッサン童話と絵本のグランプリ」は、童話と絵本の振興に寄与するとともに、新人作家の登竜門ともなっており評価を得ています。

第26回の応募総数は、童話2224編、絵本442編で、厳正な審査の結果、次の作品が入賞し、10年3月7日に横浜の日産自動車(株)本社ホールにおいて表彰式を行います。大賞受賞作品は、10年12月頃にB1出版から出版されます。

*童話の部

【大賞】「トンノの秘密のプレゼント」田中きんぎよ(東京都) 【優秀賞】「花いっばいのたんじょう日」黒田ふみ(大阪府) / 「青いセーター」小野マヤ(大阪府) / 「つけもの石の里帰り」向本実穂(広島県)

*絵本の部

【大賞】「おんでこのそら」宮崎優・俊枝

(東京都) 【優秀賞】「ピンクのぞう」奥野哉子(大阪府) / 「ひろい野原のおはなし」すこもこ(東京都) / 「スノウドロップ」小沢夏美・久納ヒサシ(長野県)

共催イベント等を開催

日本万国博覧会記念機構との共催イベントを下記の通り実施しました。

- ①「日本オランダ年08-09 EXPO Park チューリップフェスタ in OSAKA」 09年4月20日(日)
- *ミッフィー写真撮影会を実施。参加者数：120名
- ②環境キスホ 09年5月4-5日(月・祝・火・祝)
- *エコカスターネット作り(上の広場)
- *エコの木を作る(〃)
- *紙芝居上演(〃)
- *エコの花を咲かせよう(当館)
- *エコリリーポイント(〃)

参加者数：1270名

なつかしの本に出会おう! バックヤードツアー実施



書庫で本を見入る子どもたち

職員が解説しながら、書庫を含めて案内するバックヤードツアーを行いました。中学生以上向けと小学生向けがあり、09年度は159回開催し、1107名の方にお越しいただきました。当館ならではの雑誌、マンガや街頭紙芝居などに再会し、子ども時代をなつかしく思い出したという声が多数寄せられました。

